

予算審議



広域連合への負担金6億6600万円を計上
工事が進む大町市源及地区の新ごみ焼却施設現場

積極的に出していく。

問

29年度の中学校タブレット購入で全生徒にいきわたるか。

問

答

合計は185台だが、29年度に全数整備はできない。

意見

中学校は県のICT教育パイロット校なので、生徒の学習意欲向上につながるように活用してほしい。

問

設置予定の図書館施設検討委員会の構成は。

答

図書館協議会委員も入れ15名以内で構成。1〜2年の期間で、場所や規模、内容などを住民参加で検討したい。

問

新共同調理場建設の予算8億円の計画内容は。

答

敷地の造成、建物、南北小厨房設備機器、駐車場などの場内整備を含み、コンテナ車、取り付け道路整備、塩の道拡幅工事は含まれていない。調理器具等の備品は、再利用できるものを活用し、コスト圧縮を目指す。

住民課

問

29年6月から八方清掃センターで使用する新たな事業系指定ごみ袋の大容量化は。また、事業系ごみの取り扱いについての考え方は。

答

指定ごみ袋は、広域で予定される大きさを基本とし、料金も含め同じくすることで広域化に円滑に移行できることも目的としている。事業系廃棄物は、原則どおり個別委託を促す。

問

新たなごみの出し方についての周知方法は。

答

ガイドブックや出し方早見表の作成、地区ごとの説明会を積極的におこなう。また、ケーブルテレビや、DVD制作も考えていく。

問

広域ごみ処理施設建設の負担金は。

答

全体費用は約50億円。うち約40億円を29年度で計上、30年度以降の負担金は下がる予定。31年度からは八方清掃センターの解体が始まり、跡地にリサイクル関連施設の建設が予定されているので、建設負担金は32年度ぐらいいままで続く予定。白馬村の建設にかかる負担割合は22.5%で協定されている。

問

ごみ集積場補助金予算500万円の新設予定は。みそら野地区、名鉄地区。

答

名鉄地区のステーション方式の状況とごみ集積場設置との関連は。

問

ステーション方式は4カ所で順調に利用されている。既存の地区集積場のある地区でも、希望状況で小規模ステーション方式の対応も考えていきたい。

観光課

問

創業者支援事業補助金の内容と予定する件数は。

答

創業塾受講者を対象に上限は100万円、空き店舗活用時は10万円、雇用創出時は10万円を加算するもので、基本額の100万円で7名分を予定。

問

DMO関係で必要とされる調査は、観光局事業でおこなうべきでは。

答

インバウンド関係に特化した調査などを進めて分析をしていきたいもので、村の事業として予算化し、局に委託して実施したい。

問

予定する「観光地としての事業継続計画」の内容は。

答

危機管理に関するもので、各種災害時に観光地としてダメージを受けないためのプランニングは重要であり、計画立案のための研究を複数年の予定で民間と共同で着手するもの。

問

山小屋の利用者が減少傾向だが、今後の経営方針は。